

今後書きたいテーマを
教えてください。

SF的な背景で繰り広げられる十代の成長小説を
構想しているところです。
女の子たち、とくに姉妹のあいだの
友情や妬み、嫉み、愛を繊細に描きたいのですが、
まだ自信がないですね。
複雑で微妙な感情を描き出す物語を
書きたいと思っています。

「ちえっく CHECK」Vol.8
キム・チョヨブインタビューより

PROFILE

キム・チョヨブ(金草葉)

1993年生まれ。浦項(ポハン)工科大学化学科を卒業し、同大学院で生化学修士号を取得。在学中の2017年、第2回韓国科学文学賞中短編部門にて「館内紛失」で大賞、「わたしたちが光の速さで進めないなら」で佳作を受賞し、作家としての活動をスタート。短篇集『わたしたちが光の速さで進めないなら』(早川書房刊)は韓国国内でベストセラーとなり、韓国の新世代SFシーンを牽引する作家となった。他に長篇『地球の果ての温室で』、第二短篇集『この世界からは出ていけれど』(早川書房刊)、『最後のライオン 韓国パンデミックSF小説集』(共著)等がある。2021年、キム・ウォニョンとの共著のノンフィクション『サイボーグになる』で韓国出版文化賞を受賞。

どこでどの時代を

生きようとも、

お互いを

理解しようと

することを

諦めたくない。



©Melnd Chung, Korean Literature Now

キム・チョヨブ

書籍問い合わせ先

- ▶ 岩波書店 〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋2丁目5番5号
<https://www.iwanami.co.jp/>
- ▶ 河出書房新社 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 2-32-2
<https://www.kawade.co.jp/>
- ▶ 早川書房 〒101-0046 東京都千代田区神田多町 2-2
<https://www.hayakawa-online.co.jp/>

K-BOOK フェスティバル実行委員会
<https://k-bookfes.com/>

K-BOOK
フェスティバル
2023 in Japan

SFの 魅力とは……

わ たしたちは、見て、聞いて、触ることのできるこの世界を現実だと思っっているけれど、実際には「感覚バブル」(sensory bubble)に閉じ込められて生きています。人間が見たり聞いたりできるごく狭い範囲の光と音に限られた形態の嗅覚と触覚、不正確な時間感覚。わたしたちはその感覚バブルのなかで、これが本物の現実だと信じて生きていきます。でも、わたしたちが本当に感知できるのは、数万通りの現実のうちの一つだけなのかもしれない。今この場で「わたしたち」と呼んでいる

皆さんとわたしでさえも、互いに別々の感覚バブルに包まれていることでしょうか。
ふとした瞬間にそのバブルが弾けることもあれば、通りすがりの人のバブルと触れ合うこともありませう。それはとても不思議で、説明したい瞬間だといえるでしょう。

でも、そんな瞬間を不器用ながらに描いてみるのができる、それがSFの魅力ではないでしょうか。

〔この世界からは出ていくけれど〕
日本語版への序文より一部抜粋)

『わたしたちが
光の速さで進めないなら』



『地球の果ての温室で』



『最後のライオニ
韓国パンデミック SF小説集』



『この世界からは出ていくけれど』



『サイボーグになる
テクノロジーと障害、
わたしたちの不完全さについて』



第2回韓国科学文学賞中短編大賞
& 佳作賞受賞作! 日本国内での韓
国SF小説人気をけん引する一冊

廃止予定の宇宙停留所には家族の住む星へ帰るため長年出航を待ち続ける老婆がいた……冷凍睡眠による別れを描き韓国科学文学賞佳作を受賞した表題作、同賞中短編大賞受賞の「館内紛失」など、疎外されるマイノリティに寄り添った女性視点の心温まるSF7篇!

カン・バンファ、ユン・ジョン・訳
早川書房/2020年刊

宇垣美里推薦! 『わたしたちが
光の速さで進めないなら』著者による
長篇第1作

謎の蔓草モスバナの異常繁殖地を調査する植物学者のアヨンは、そこで青い光が見えたという噂に心惹かれる。幼い日に不思議な老婆の温室で見た記憶と一致したからだ。アヨンはモスバナの正体を追ううち、かつての世界の大厄災時代を生き抜いた女性の存在を知る…

カン・バンファ・訳
早川書房/2023年刊

新鋭から巨匠まで、
韓国SFの最前線を知る
アンソロジー

ヒト、機械、鯨、ドローン、虫、ウイルス……現実を転覆する韓国SFの、めくるめく想像力による「新しい時代の、新しい未来」。星々に生きるものたちの6つの物語。

第一章「黙示録 終わりとはじまり」にキム・チョヨブ「最後のライオニ」(古川綾子訳)収録。……人類が感染症で絶滅し機械が支配する惑星の探査を命じられた私が見たことは?

斎藤真理子、清水博之、古川綾子・訳
河出書房新社/2021年

『わたしたちが光の速さで
進めないなら』のテーマを
さらに深化させた第2短篇集

人より何十倍も遅い時間の中で生きる姉への奇立ちを抑えられない妹の葛藤を描く「キャンピング方程式」、幻肢に悩まされ三本目の腕の移植を望む恋人を理解したい男の旅路を追う「ローラ」——社会の多数派とそうならない者との、理解と共存を試みる人生の選択7篇。

カン・バンファ、ユン・ジョン・訳
早川書房/2023年刊

SF作家と俳優・弁護士の作家が
自身の障害、テクノロジーの現在、
近未来の社会について縦横に語る注目作

世界が注目するSF作家と、俳優にして弁護士の作家。ともに障害当事者でもある二人が、私たちの身体性とテクノロジーについて縦横に語る。完全さに到達するための治療でなく、不完全さを抱えたままで、よりよく生きていくための技術とは? 韓国発・新しい社会と環境をデザインするための刺激的な対話。韓国出版文化賞受賞作。

牧野美加・訳
岩波書店/2022年刊行